

令和 5 年度
豊島区立図書館
事業報告
(重点取組)

<令和 5 年度豊島区立図書館の主な取り組み 1>

「にぎやかな公共図書館」の推進

豊島区立図書館基本計画（第二次）では、今後の図書館像として、本の貸出や閲覧だけでなく、誰もがそれぞれのスタイルで利用できる「にぎやかな公共図書館」を掲げています。「にぎやかな公共図書館」の実現は、ハード・ソフト両面の改善が必要であり、何より図書館員の意識の変革が求められています。

ハード面では、先進自治体の視察等も交えながら、改築・改修が決定している「上池袋図書館」「千早図書館」のコンセプト、空間づくりや導入機能等を検討しました。

ソフト面では、地域図書館の取り組みを2点紹介します。

まず、巣鴨図書館において令和5年9月よりキッチンカーの出店を本格開始しました。図書館利用者が巣鴨図書館の前庭で飲食を楽しむ様子が見られます。また、普段図書館を利用しない方がキッチンカーを目的に足を運んでくれることもあり、読書に限らず様々な目的をもって、気軽に訪れる場所としての図書館が実現しつつあります。（庁内の職員提案制度「カイゼンチャレンジ賞」受賞）

目白図書館では近隣施設のメジロック（豊島区立目白生活実習所）と連携し、アート活動を通じ、地域にある身近な施設、仲間を知ってもらうことを目的としたワークショップ「缶バッジを作ろう！」を実施しました。気軽に参加してもらうため、事前申込制ではなく当日の先着順イベントとして開催したところ、幅広い世代の方が参加し盛況なイベントとなりました。

職員の資質向上の取り組みとして、図書館員が一丸となって新たな図書館づくりをすすめるため、近年国内で浸透している北欧スタイルの図書館を研究されている筑波大学の吉田右子先生をお招きした職員研修を実施しました。今後も新たな図書館づくりを推進するため、職員研修を強化していきます。

<1> 地域図書館の改修・改築検討



上池袋図書館 内観イメージ図

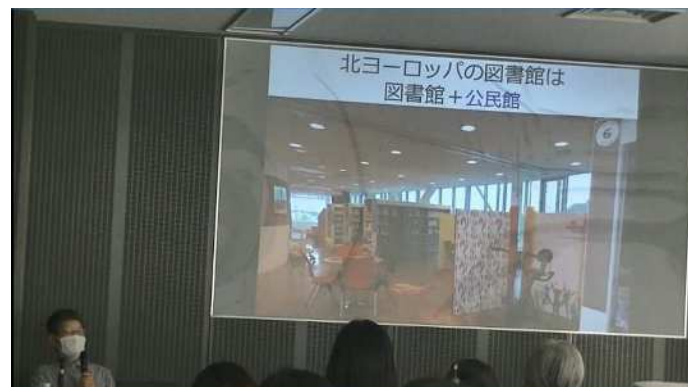
<2> キッチンカーの誘致



<3> 目白図書館ワークショップ



<4> 職員研修 講師：筑波大学吉田右子教授



<令和 5 年度豊島区立図書館の主な取り組み 2>

まちなか、館外での読書の場の創出

豊島区立図書館基本計画（第二次）の重点的な取組のひとつに掲げられた「まちの中での場の創出」では、地域の人々が集まる場でのサービス提供が求められています。区では「にぎやかな公共図書館」の実現に向け、区内事業者と連携し、区内のさまざまな場所へ出向き、読み聞かせ会を行っています。

株式会社サンシャインシティとの共催による「サンシャインシティ絵本の森読み聞かせ会」では、図書館司書による大型紙芝居、大型絵本等のおはなし会を行いました。

株式会社サンシャインシティとは、ほかにも区本庁舎 10 階「豊島の森」を会場とした、環境に関するおはなし会「図書館司書によるもりもりおはなし会」や、雑司が谷公園を会場とし、IKEBUS（区営の周遊バス）の展示も楽しめる「図書館司書によるあおぞらおはなし会」を実施しました。

さらに、西武池袋本店屋上庭園「食と緑の空中庭園」を利用している親子連れの来場者に向けた「わくわくおはなし会」も実施しています。

<1> サンシャインシティ絵本の森 読み聞かせ会 <2> もりもりおはなし会



たくさん子ども達と手遊びしている様子



豊島の森での読み聞かせ会

<3> あおぞらおはなし会



IKEBUS に乗って読み聞かせ

<4> わくわくおはなし会



みんな上手にできるかな？

<令和 5 年度豊島区立図書館の主な取り組み 3>

快適な図書館環境の整備

豊島区立図書館は身近なサードプレイスとして居心地の良い滞在型図書館を目指しています。

その一環として、巣鴨図書館の「すがもがーでん」や各館のマイボトル給水機の設置の取り組みを紹介します。

巣鴨図書館の前庭を活用した「すがもがーでん」では季節の野菜や植物、ハーブ等を育てています。緑化や鑑賞・観察を目的としておりますが、図書館事業で利用することもあります。令和5年度はすがもがーでんでできた綿花を利用し、SDGs 未来都市である豊島区が推進するSDGsの目標のうち、「12.つくる責任つかう責任」、「15.陸の豊かさを守ろう」をターゲットに、糸つむぎのワークショップを行いました。

令和6年3月末より区立図書館7館中6館にマイボトル給水機を設置しました。各図書館ではマイボトルを持参する利用者が徐々に増えています。また、マイボトル給水機を目的に図書館を給水スポットとして利用される方もいらっしゃいます。マイボトル給水機は、居心地のよさのほか、マイクロプラスチック削減のための環境対策、熱中症対策にも寄与しています。

<1>すがもがーでん



糸つむぎワークショップの様子

<2>マイボトル給水機



<令和 5 年度豊島区立図書館の主な取り組み 4>

読書バリアフリーの推進

令和元年 6 月施行の「読書バリアフリー法（通称）」や、芥川賞受賞作品「ハンチバック」の著者で自身も難病を抱えている市川沙央さんの訴えもあり、全国の公共図書館で、大活字本や音訳資料、オーディオブックなどバリアフリー資料の収集・提供が進んでいます。

公共図書館併設の法定点字図書館（視覚障害者情報提供施設）に 50 年超の歴史を持つ本区は、読書バリアフリーに関しては、先導的な立場であり続けたいと考えています。

バリアフリー資料をそろえた「りんごのたな」を設置、展開しているほか、全国初となるバリアフリー資料に特化した図書スポンサー制度（りんごのたなスポンサー制度）開始の準備を進めました。（令和 6 年 4 月開始）

また、12 月には併設の舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）において、公益財団法人文字・活字文化推進機構との共催による「読書バリアフリーフォーラム（こんな立場の人も読書バリアフリーを必要としています。）」を開催したほか、当事者以外の方へも理解を進めるため、点字教室も開催しています。

<1> バリアフリー資料の収集、「りんごのたな」の設置・展開



中央図書館



巣鴨図書館

<2> 読書バリアフリーフォーラムの開催



<3> 「子どものための点字教室」



<令和 5 年度豊島区立図書館の主な取り組み 5>

区内学校、大学との連携

これからの社会を担う子どもたちが志高く未来を生きていくために、日常の読書活動が極めて重要な役割を果たしています。こうした読書活動を推進するためには、関係機関、とりわけ区内の学校との協力連携が不可欠となります。

令和 4 年度、5 年度に巣鴨図書館と清和小学校において「学校図書館と地域図書館の連携協力のモデル事業」を行い、調べ学習に必要な図書の選書・配送、児童の図書館見学、学校司書と図書館司書の情報共有等、様々な連携を行いました。この活動の中で、清和小学校 6 年生を対象に、キャリア教育の一環として大正大学附属図書館の見学会を実施しました。モデル事業終了後も、連携は続いています。

このほか、中学校から要望の多い職場体験、ブックトークなどに積極的に取り組むなど、サービスの充実を図っています。

また、区内小中学校・大学・幼稚園は、図書ネットワーク便に登録することで、1 か月 100 冊まで図書を利用でき、この制度は、多くの施設で活用されています。

<1> 巣鴨図書館と地域との連携(清和小学校・大正大学)



<2> サービスの充実



ブックトークの様子

<3> 図書ネットワーク便の活用



教育施設へ発送されるコンテナ

<令和 5 年度豊島区立図書館の主な取り組み 6>

地域、住民との連携

本区では目指すべき区立図書館の姿として「自分づくり、地域づくりのプラットフォームとなり、地域コミュニティの活性化を促進する場」を掲げており、各館、とりわけ地域館では、近隣にお住まいの方や、活動されている団体との連携と協働を念頭に運営しているところです。

令和 5 年度区立図書館の代表的な取り組みとして、まずソメイヨシノの故郷 染井地区にある駒込図書館を紹介します。

館内に桜に関する資料を充実させた常設コーナー「ソメイヨシノライブラリー」を設置し、文化資源・観光資源として活用しながら、情報を継承しています。

さくらの日（3月27日）を含む1週間を「さくらウィーク」とし、館内にソメイヨシノの装飾を施し、来館者にソメイヨシノにまつわるプレゼントの配布を行いました。

また、上池袋図書館では、2町会が隣接する上池袋さくら公園で開催した新入児童お祝い会に参加し、図書館の説明・宣伝のほか、リサイクル図書の配布を行いました。今後も実施して欲しいとの要望を受けています。

長崎地域においては、名所・旧跡や地域の歴史などを案内するボランティアガイド「としま案内人長崎町」の活動を支援し、千早図書館で2月に講演会を開催。地域の方に、自分たちが暮らしているまちのことをより知っていただくことにつながりました。

<1>さくらウィークの実施(駒込図書館)



館内装飾



プレゼント（一般向け）



プレゼント（児童向け）

<2>地元イベントへの参加(上池袋図書館)



リサイクル本の配布の様子

<3>としま案内人長崎町との連携(千早図書館)



講演会の様子

令和5年度豊島区立図書館運営に係る評価基準

運営状況に係る指標、施策、取組み及び利用者アンケート結果の諸項目について、本基準により評価する。なお適用条件を総合的に勘案するものとする。

1 一般基準（指標、施策、取組に適用）

評価区分	評語	適用条件
A	(基本) 良好 (その他) ・ 現行どおりで可 ・ 拡充し推進すべき	・ 目標を相当程度超える ・ 計画を相当程度超えた進捗がみられる ・ 想定以上の効果がみられる ・ 前年度実績を相当程度超えた状況にある ・ 特に改善すべき点はなく、現状どおりで問題ない ・ 需要が高く一層の拡充が求められる。
B	(基本) 標準 (その他) ・ おおむね現行どおりで可 ・ 一定程度改善の余地がある。	・ おおむね目標どおりの状況にある ・ おおむね計画どおりの状況にある ・ おおむね想定どおりの状況通りにある ・ おおむね前年度並みの状況にある ・ 一定程度改善の余地があるが、おおむね現状どおりで問題がない ・ 評価が困難または評価を要しない状況にある
C	(基本) 不十分 (その他) ・ 大いに改善を要する ・ 廃止、縮小を要検討	・ 目標を相当程度下回る状況にある ・ 計画に比し遅延した状況にある ・ 想定より下回る状況にある ・ 前年度実績を相当程度下回る状況にある ・ 特段の成果がみられない ・ 着手（研究・検討含む）できていない（着手時期がない場合及び特別な事情がある場合、実施の必要性が失われた場合等を除く） ・ 運営手法等に課題があり、抜本的な改善を要する ・ 実施の必要性が低いまま運営を行っている

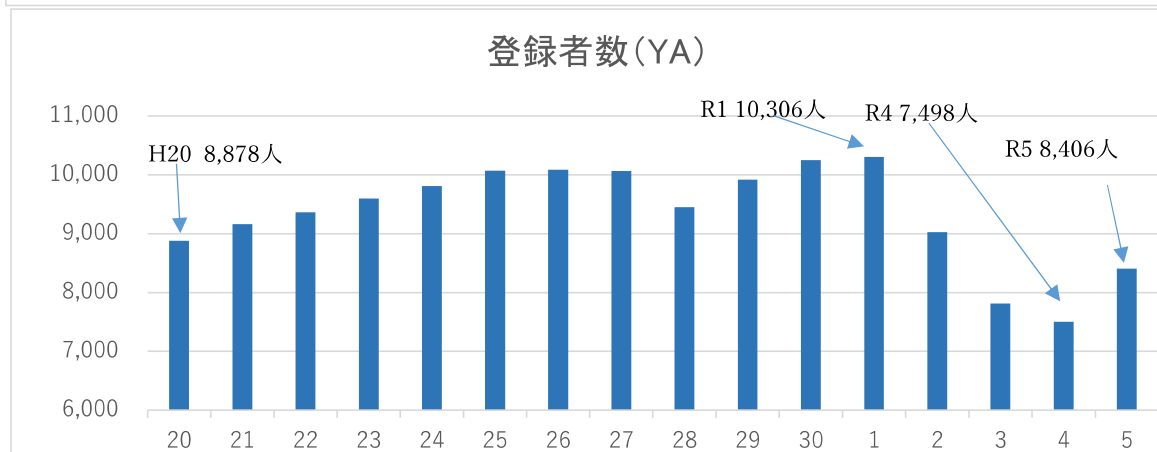
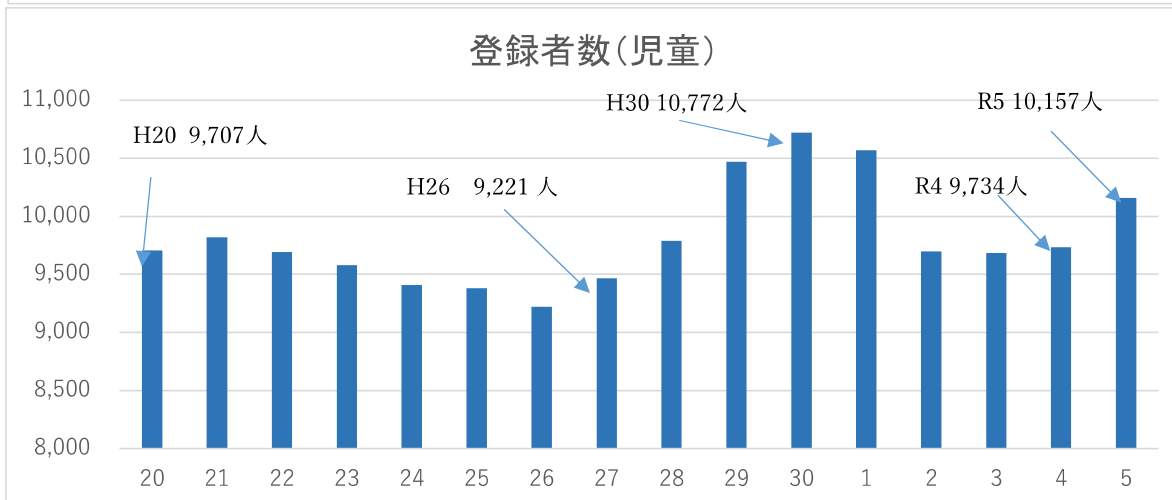
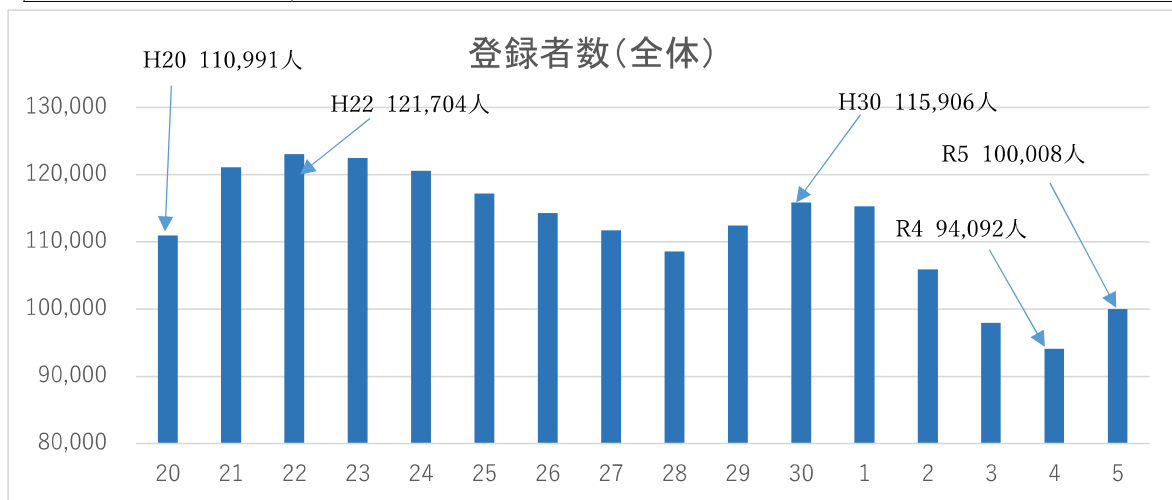
2 特別基準（利用者アンケート結果に適用）

評価区分	適用条件
良好	・ 利用者の評価が極めて高いことが認められる ・ 特段の課題がないことが認められる ・ 現行どおりの運営で支障がないと認められる ・ 改善の必要または余地がないと認められる
改善の余地あり	・ 評価結果から何らかの改善の必要と認められる ・ 相当数の利用者からの改善要請が認められる ・ 相応の改善により利用者の満足度が高まると認められる

令和5年度豊島区立図書館運営の評価①<総括>

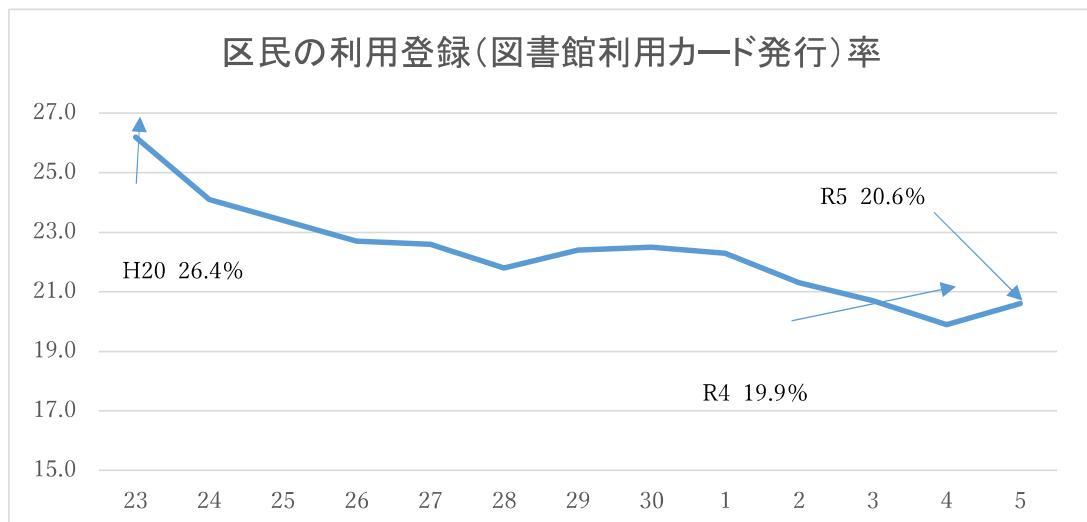
1 登録者総数(年度末)

評価	評価理由等
B	前年度比 5,916 人(6.3%)増加した。ただし、未だコロナ前には戻っておらず、直近ピークの平成30年度比で14%低い状況にある。(平成22年度の約4分の3) 年代別では、YA(13～19歳)、児童(12歳以下)とも回復傾向にあるが、いずれもコロナ前には戻っておらず、特にYA層の戻りが鈍い。



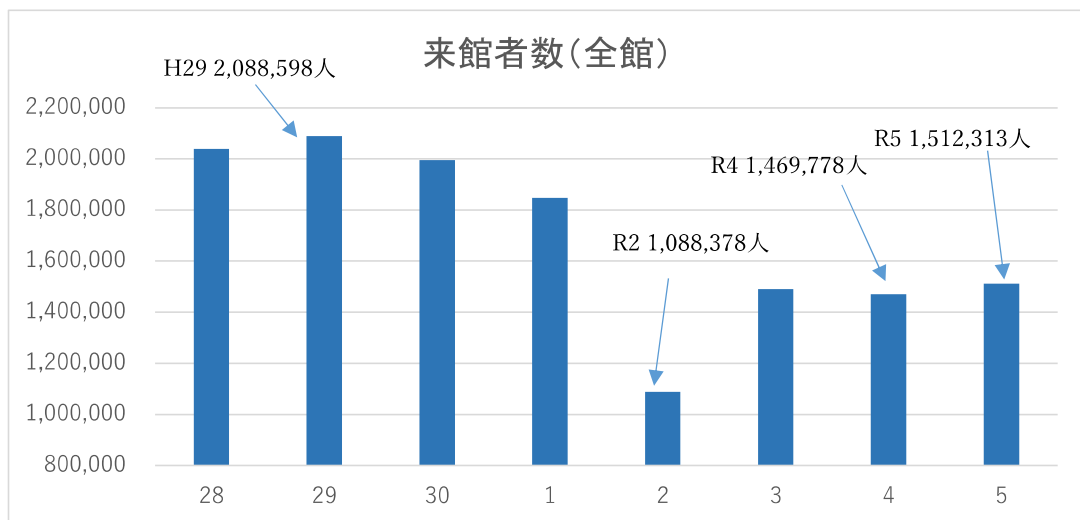
2 区民登録率（区民全体に占める利用登録者の割合 年度末）

評価	評価理由等
B	前年度比 0.7 ポイント上昇の 20.6% となった。 平成 22 年度の 26.4% から、令和 4 年度の 19.9% まで、12 年間で 6.5 ポイント低下したが、ひとまず下げ止まる形になった。 なお、本区は利用登録に一切の住所要件を設けておらず、（23 区中 9 区）、登録者に占める区民割合は 60.2% である。（※中央、駒込は区外在住者が多い。）



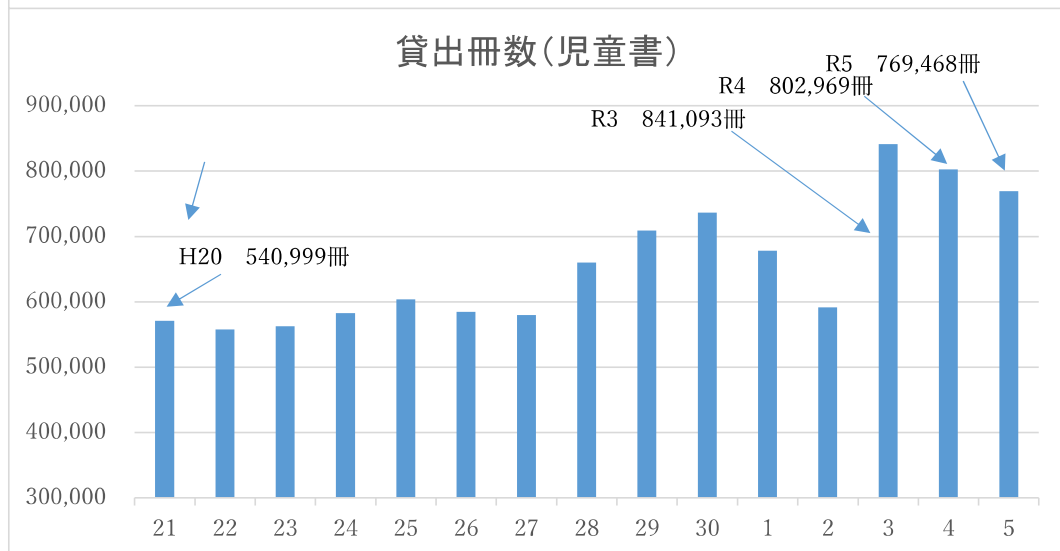
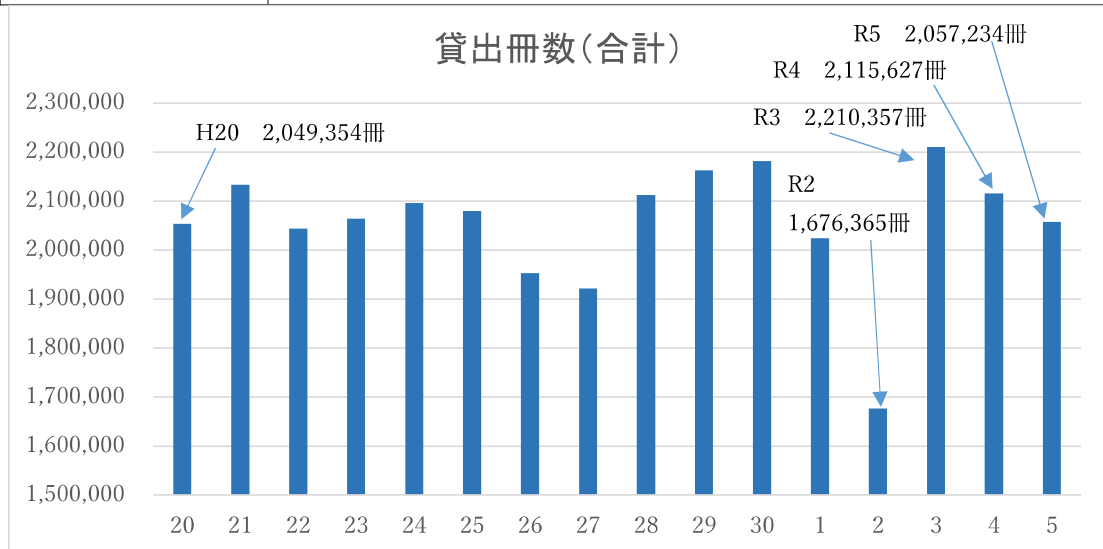
3 来館者数（年間）

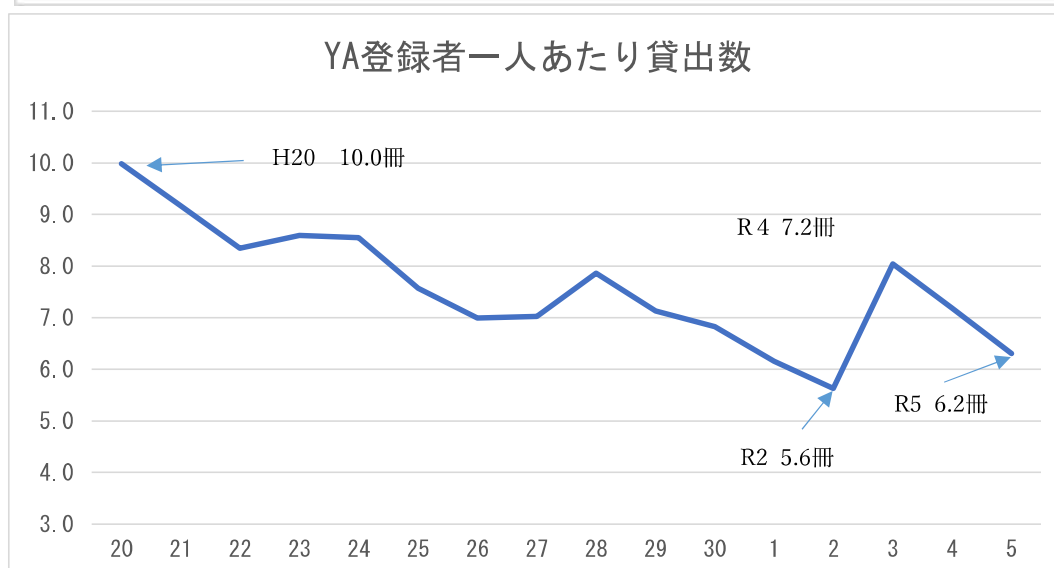
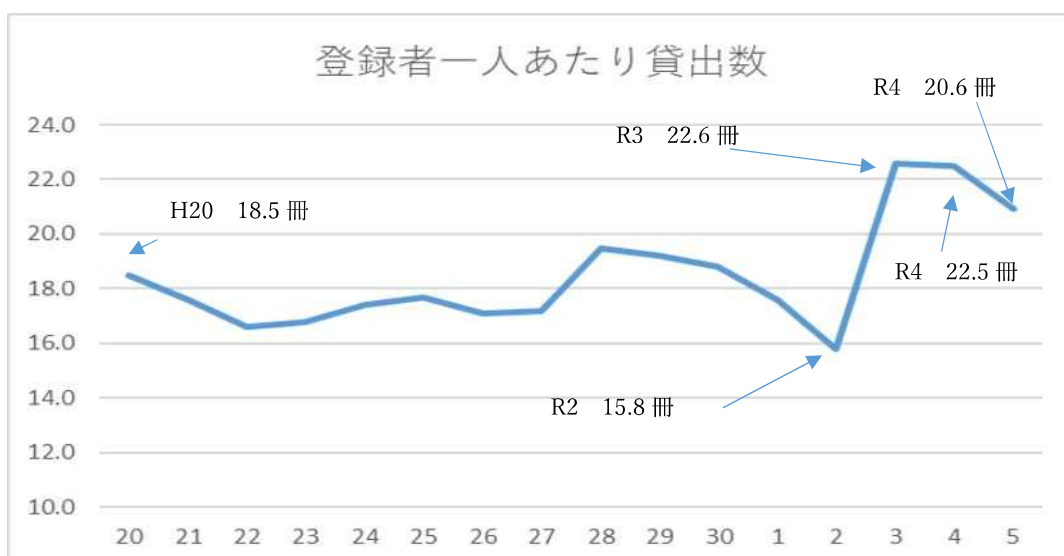
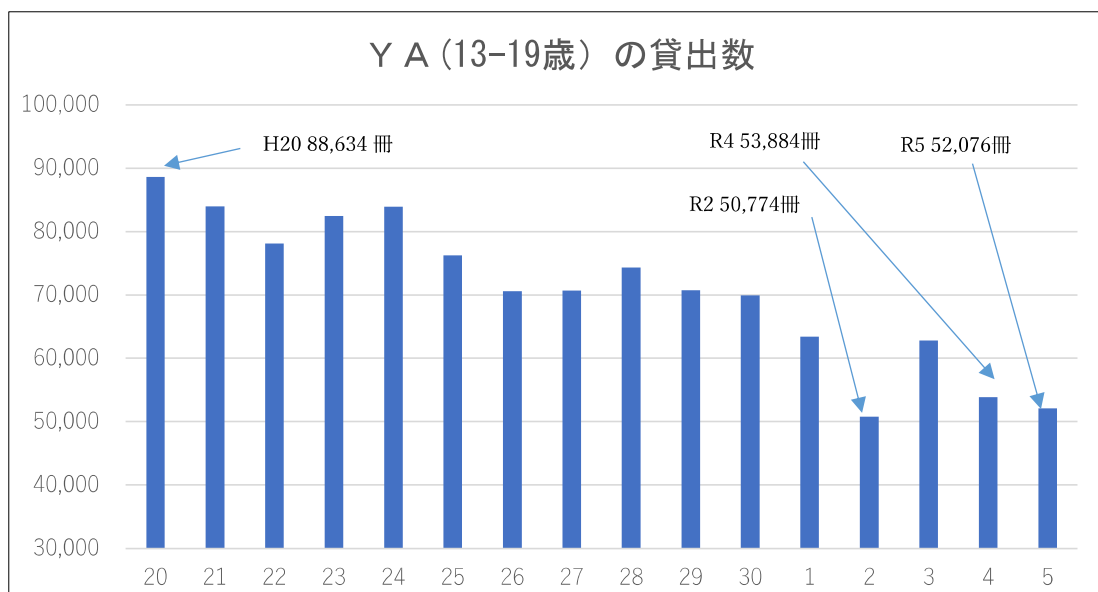
評価	評価理由等
B	前年度比 42,535 人（2.9%）増加した。 ただし、平成 29 年度 208.8 万人の約 7 割であり、コロナ禍からの回復の鈍さがみられる。 なお、場としての図書館の充実度を図る指標として特に注視したい。

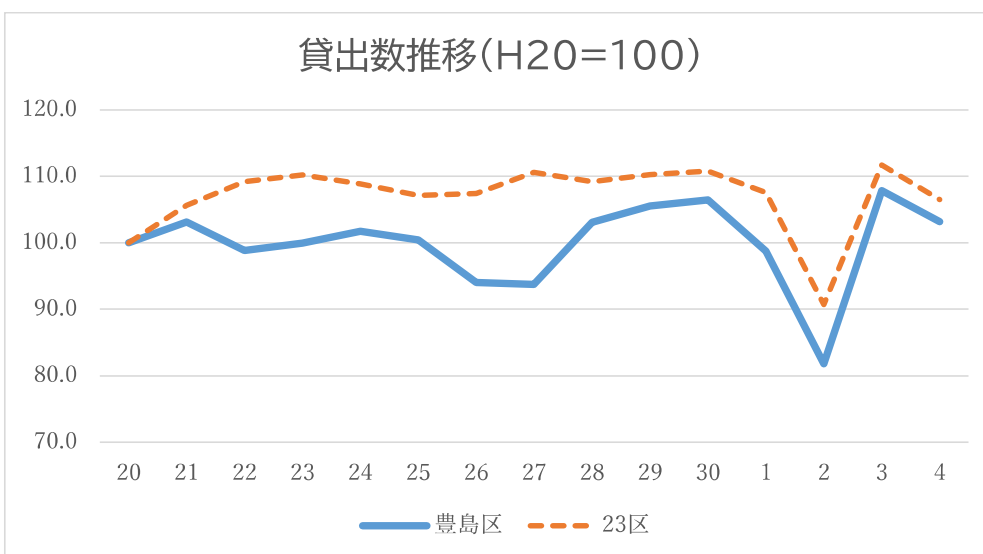
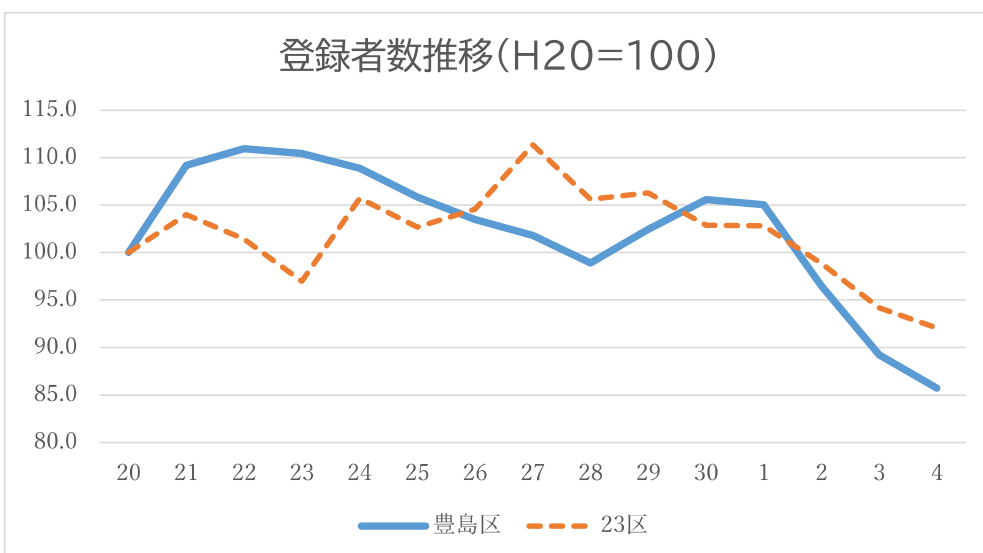
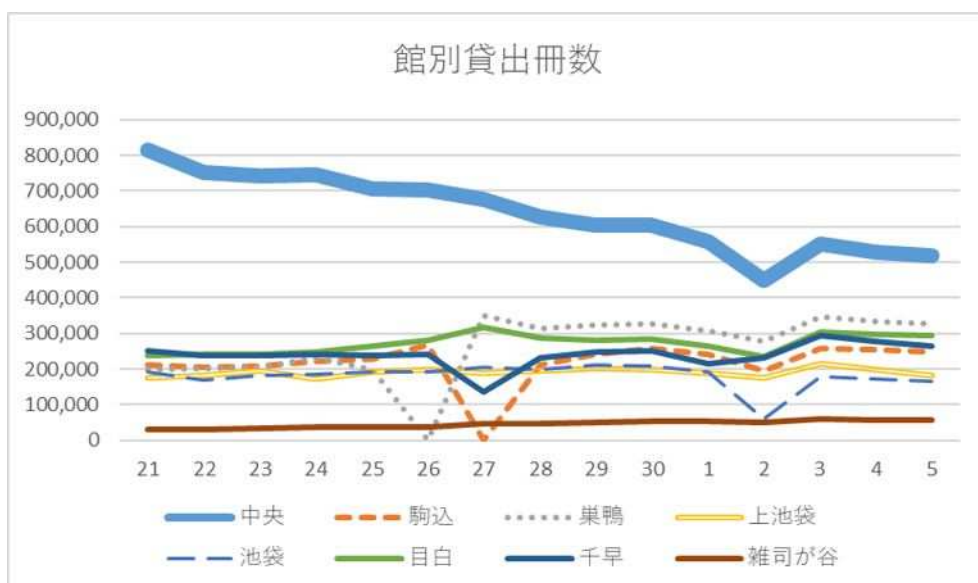


4 貸出数(年間)

評価	評価理由等
B	前年度比 58,393 冊(2.8%)減少した。 登録者、来館者の減少に比べ、貸出冊数については比較的底堅く推移している。令和 5 年度は 2 年連続の減少となったが、コロナ禍にあった令和 3 年度の貸出数は過去最高に達した。とりわけ児童書の伸びが顕著である。図書館内で閲覧する形から、借りて自宅で読む形にシフトしている可能性がある。 登録者数、来館者数が低位な中、貸出冊数が伸びていることは、図書館を利用する者と、利用者しない者が二極化しているともいえる。(23 区全体でも同様傾向) 一方、4 年度の YA 層(13 歳～19 歳)の貸出数は 5 万 3 千冊強で、平成 20 年度 8 万 8 千冊強から約 4 割の大幅減となっている。 館別にみると地域館は堅調だが、中央館は長期減少傾向にある。







令和5年度区立図書館運営状況の評価②

<豊島区立図書館基本計画(第二次)進捗状況>

1 あらゆる人(子どもから高齢者、障害者、外国人等)の日常生活を豊かにするために地域住民が気軽に訪れ、図書資料等に親しむことのできる場の実現

評価		評価理由等		
B		包摂と多様性を追求する豊島区立図書館の最重要課題である。23 区唯一の公共図書館併設の点字図書館を持つ本区の特徴を踏まえ、読書バリアフリーについて優先的に取り組んでいる。 児童サービス、YAサービスの充実も図っているが、YA(ティーンズ)層については、必ずしも利用増につながっていない。		
主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
読書に課題や困難がある人へのサービス	点字図書館(ひかり文庫)の運営を中心に、視覚障害者のほか、外国人や日本語を母語としない利用者など、読書に困難や課題がある人が気軽に読書を楽しめる環境を整備する。	ひかり文庫図書資料数(点字図書・テープ図書・DAISY 図書・拡大写本図書・さわる絵本) 14,837 点 対面朗読 0 人 0 回 そよかぜ文庫登録者 9 人 同貸出数 1352 冊 外国語図書の蔵書数 3601 冊	ひかり文庫図書資料数(点字図書・テープ図書・DAISY 図書・拡大写本図書・さわる絵本) 14,616 点 対面朗読 24 人 24 回 そよかぜ文庫登録者数 7 人 同文庫貸出数 1,681 冊 外国語図書の蔵書数 3536 冊	B コロナ禍で中断していた点字図書館の対面朗読を規模縮小ながら再開したほか、バリアフリー図書のコーナー「りんごのたな」を巣鴨図書館に続き、中央図書館でも展開するなど、読書バリアフリーの推進を図った。(読書バリアフリー法推進計画については都・他区の動向を注視のうえ継続研究) そよかぜ文庫は登録者が一桁となっており、サービスの周知強化が必要である。 外国語図書蔵書数は 23 区平均を大きく下回っており、さらなる拡充が必要である。外国人比率が高い本区の特徴を踏まえ、やさしい日本語の活用など多文化サービスを推進していく。

主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
児童サービスの充実 ＜子ども読書活動推進計画関連＞	児童（12歳まで）が、読書の喜びを知り、読書習慣を身に着けられるよう、児童と本をつなぐサービスを充実する。	児童書蔵書数 205,346 冊 児童書貸出数 802,969 冊 区立小学校への団体貸出 1033 回 31,762 冊 おはなし会の実施 ・乳幼児向け 68 回 参加 406 名 ・児童向け 339 回 参加 2,281 名	児童書蔵書数 209,779 冊 児童書貸出数 769,468 冊 区立小学校への団体貸出 941 回 14,812 冊 おはなし会の実施 ・乳幼児向け 92 回 参加 737 名 ・児童向け 329 回 参加 3,434 名	A コロナ禍で中断していた館内のおはなし会や子ども向けイベントを再開したほか、子ども向けブックリスト（幼児用、小学生用）や読書ノートを配布するなど子どもが本に親しむ環境を充実させることができた。
YA サービスの充実 ＜豊島区子ども読書活動推進計画関連＞	13歳から19歳までのティーンズが本に接する機会を増やし、読書を通じて日常生活を豊かにできるよう、サービスを充実する。	YA向け書籍蔵書数 36,827 冊 YA向け書籍貸出冊数 127,796 冊 区立中学校への団体貸出 7 回 404 冊 YA向けイベントの開催 0 回	YA向け書籍蔵書数 37,495 冊 YA向け書籍貸出冊数 76,615 冊 区立中学校への団体貸出 12 回 245 冊 YA向けイベントの開催 2 回 ・図書館のコーナー名募集 参加 106 名 ・図書館キャラクタープロフィール募集 参加 240 名	B YA向けの書籍の充実や、YA向けブックリストの配布、利用者が勧める本を紹介するコーナーの常設をおこなったが、貸出冊数の増につなげられなかった。 今後はYA層が参加しやすいさまざまなイベントを意識的に増やすなど、図書館に親しみをもち、足を運んでもらえる仕掛けを増やしていく。
利用者意見の反映及びサービスの向上	利用者の意向を的確に把握し、他自治体の状況等も踏まえつつ、利用者サービスの向上を図る。	利用者アンケート（満足度調査）の実施 4 館 有効回答数：一般向け 711 件 子ども向け 138 件 メール、はがきによる意見 86 件	利用者アンケート（満足度調査）の実施 7 館 有効回答数：一般向け 2,604 件 子ども向け 1,223 件 メール、はがきによる意見 104 件 子どもレター 26 件	B 6年ぶりの全館アンケートを実施し、内容を分析検証したほか、メール等で受けた利用者の声を反映した。 6年度に貸出数・予約数の上げを実施するほか、今後の施設整備に反映する。また各館で受けた意見を全館で共有できる仕組みを検討する。

2 区民の日常生活において生じる疑問や、区民が携わる地域活動の課題解決を図るために必要な図書資料等を提供する場の実現

評価・進捗度		評価理由等		
B		地域の情報センター、課題解決型図書館を実現するうえでの重要な取り組みである。 レファレンスサービスの認知度は高くなく利用拡大の余地があるため、一層の周知に努める。また区民が自ら有益な情報を収集する能力を修得するための支援にも努める。		
主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
情報サービスの 充実	区民一人ひとりの疑問や問題解決を図るために必要な図書資料等を提供できるよう、情報サービスを充実する。	ブックリスト作成 18 件 パスファインダー7 館中 1 館 商用データベース 8 点 夏休みの宿題応援プログラム 5 館 8 回 開催 メールマガジン登録者数 未集計 インターネット情報利用館数 1 館	ブックリスト作成 12 件 パスファインダー7 館中 1 館 商用データベース 8 点 夏休みの宿題応援プログラム 6 館 10 回 開催 メールマガジン登録者数 1,912 人 インターネット情報利用館数 1 館	B 課題解決に資する適切な資料を提供できるよう、利用者視点に立ったレファレンスを心掛けており、レファレンス件数は微増となった。独立したレファレンスカウンターの設置、ウェブによるレファレンスサービスの導入が検討課題である ・単に図書館員が資料を検索・提供するだけでなく、情報リテラシーを含め自ら情報を検索する力を身に着ける観点で、図書館ホームページに若者向け「調べ学習のツボ」を掲載した。また「夏休みの宿題応援プロジェクト」において資料の探し方の助言を行った。 ・今後も、区民が図書館を最大限活用し、課題解決ができるよう情報サービスの充実を図る。

主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
地域の課題に対応したサービス	地域の課題、庁内の政策立案・調査研究に対応するために必要な図書資料や情報を提供できるようサービスを充実する。	レファレンス件数 46,198 件 中央図書館六角柱テーマ別展示 71 件 (健康支援・子育て支援等) ビジネスなんでも相談実施回数 22 回、相談件数 15 件 庁内からの資料相談に対するレファレンス 随時	レファレンス件数 48,140 件 六角柱テーマ別展示 63 件 (健康支援・子育て支援等) ビジネスなんでも相談実施回数 48 回、相談件数 35 件 庁内からの資料相談に対するレファレンス 随時	B 地域・行政の多様な問題解決を図るため、中央図書館内の展示スペース（通称六角柱）で様々なテーマごとの本を集めて展示した。中央館の特別展示でも商店街の活動を紹介した。開館当時から行っている「ビジネスなんでも相談」は前年度比倍増したが、低水準にあり、認知度を上げていく努力が必要である。 ・庁内政策に関わるレファレンスについては、同様に認知度を高めていく必要がある。
地域資料・行政資料の充実	自らの住む地域における行政・教育・文化・産業などに関連する情報を得ることで、地域への関心を醸成し、課題解決に資することができるよう、地域資料・行政資料を充実する。	地域行政資料蔵書数 16,514 冊	地域行政資料蔵書数 16,821 冊	B 全館で地域・行政資料を積極的な収集に努め、蔵書は増となったが、未だ 23 区最下位であり、本区の大きな課題である。 今後千川中に地域資料コーナーを設ける予定であり、地域・行政資料の一層の充実に努める。 ・ボーンデジタル化資料に係るレフェラルサービスの充実も課題である。
図書館員の人材育成	区民や地域の必要とする資料を適切に提供できるよう、図書館員のスキルを向上させるため、人材育成を充実させる。	都立図書館研修への職員派遣 8 種、10 名（「子供の読書に関する講座」等） 各種 OJT 研修随時	資質向上のための全体研修 1 回 (にぎやかな公共図書館研修) 国立国会図書館・都立図書館研修への職員派遣 15 種 17 名（「子供の読書に関する講座」等） 各種 OJT 研修随時	B 図書館員の専門性や接客能力の向上、今後の図書館像の理解促進のため、職員研修を強化している。派遣型の研修では、研修受講者による職場へのフィードバックを確実に行えるような体制を目指す。

3. 「自分づくり」「地域づくり」のプラットフォームとなり、地域コミュニティの活性化を促進する場の実現

評価・進捗度		評価理由等		
B		生涯学習の拠点、地域コミュニティの拠点としての図書館を目指し、区民一人ひとりに応じた学習機会の提供と学びの循環の形成を行っている。読み聞かせ、点字図書館に限定したボランティア活動のほかにも、区民の活動の場としての図書館を模索する必要がある。		
主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
多様な学習機会の提供	自己の興味や関心のある分野を学び、見識を深めるために、多様な学習機会を提供する。	一般向け各種講座・講演会 79 回開催、3,735 名参加 区内大学図書館との相互協力 6 大学 33 冊	一般向け各種講座・講演会 54 回開催、1751 名参加 区内大学図書館との相互協力 6 大学 5 冊	C 多様な分野の講座、講習会の実施に努めているが、中央館については、内容が文学・文化関連に偏りがちなため、区民の日常生活に関するテーマなど広範囲の講座や講演会を企画し、図書館を利用しなかった層へもアプローチしていく。 ・大学図書館との相互協力については、利用が伸び悩んでおり、区立図書館側で一層の周知に努める。 ・持込資料による自習を可とする取扱を検討する。
ボランティア活動の推進	区民自らが地域の生涯学習活動の担い手となり、地域コミュニティの活性化を促進するため、ボランティア活動の支援を推進する。	点字図書館ボランティア登録数 96 名 読み聞かせボランティア登録数 65 名 点訳・音訳・拡大写本ボランティアによる図書資料の制作 111 タイトル 読み聞かせボランティアフォローアップ研修 2 回、読み聞かせボランティアによる読み聞かせ会の開催 5 回 子どもの読書に関する講習 2 回 68 名	点字図書館ボランティア登録数 89 名 読み聞かせボランティア登録数 53 名 音訳ボランティアの養成 6 名 点訳・音訳・拡大写本ボランティアによる図書資料の制作 148 タイトル 読み聞かせボランティアフォローアップ研修 2 回、読み聞かせボランティアによる読み聞かせ会の開催 146 回 子どもの読書に関する講習会 2 回 90 名	B 点字図書館ボランティアについては、養成講習を再開したが、グループによる減少傾向にあり、担い手、とりわけ若年層の確保が課題である。 ・読み聞かせボランティアについては、保育園、区民ひろば等様々な施設で積極的な活動を行った。フォローアップ研修については、今後も継続して実施し、ボランティアのスキルアップにつなげ、将来的な自立化も模索していく。

主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
子どもの読書活動推進 ＜子ども読書活動推進計画関連＞	子どもが本に親しみ、読書の楽しさを感じることができるよう、小中学校、関係機関と連携して子どもの読書活動を推進する。	団体貸貸出冊数 1.872 回 60.063 冊 学校訪問 85 回 2.491 名 学級招待（図書館見学）22 回 686 名 職場体験 1 回 11 名 職場インタビュー6 回 259 名 区内幼稚園 出張おはなし会 4 回	団体貸出冊数 1.816 回 32.011 冊 学校訪問 91 回 2.673 名 学級招待（図書館見学）22 回 1.071 名 職場体験 2 回 20 名 職場インタビュー5 回 178 名 区内幼稚園・保育園 出張おはなし会 5 回	B 清和小と巣鴨図書館の連携事業では、区立図書館側が調べ学習に適当な選書、学校図書館側では区立図書館の積極利用につなげる支援を行うなど、相乗効果をもたらす取り組みとなった。今後も保育園、学校及び学校図書館と連携し、子どもたちが読書により興味を持ってもらえるよう事業を行う。 ・実施校に偏りがみられるため、今後はより多くの学校が利用できるよう周知を促進する。 ・小・中学校以外では、保育園や区民ひろば、子どもスキップでの読み聞かせや、団体貸出等を行っている。これらの施設との連携についても、より効果的に利用してもらえるような取り組みを検討する。

4 まちのあらゆるところに読書の楽しさに触れることができる機会を創出する場の実現

評価・進捗度		評価理由等		
A		公共施設、商業施設、さまざまな場所で、読書の楽しさが感じられる取り組み、図書館の幅広い活動を知ってもらえる取り組みを実施している。館内活動と館外活動のバランスが課題である。		
主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
まちの中での場の創出	図書館の外でも、読書の楽しさに触れたり、読書活動ができるよう、まちの中で読書に親しむことができる場を創出する。	館外でのおはなし会の実施 3 回 160 名参加 地域のお祭り・イベント参加によるリサイクル本の提供 3 館 3 回	館外でのおはなし会の実施 25 回 1,299 名参加 地域のお祭り・イベント参加によるリサイクル本の提供 5 館 5 回	A 公共施設のほか、大学、民間企業等との連携によるおはなし会を実施したほか、地域のお祭り等に参加しリサイクル本を配布するなど、まちの至る所で読書に親しむ機会を設けた。今後は、各図書館それぞれが、事業を通じてより一層地域との連携を深めていく。

5 その他

主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
DXの推進	図書館の業務効率化、利用者の利便性向上のために、図書館に適したDXを推進する	他区実態調査 先進自治体視察等	他区実態調査、必要性精査 先進自治体視察 利用者意向の把握 図書館システム再構築検討 上池袋図書館大規模改修に合わせた予約図書貸出コーナー設置の検討	B 図書館システムの再構築にあわせ6年度は、セルフ返却機、セルフ予約図書貸出コーナーの設置のほか、スマートフォンによる図書館カード利用機能、オンライン利用登録等の新たなサービスについて、検討を行う 電子図書館の本格実施に向けた検討も進める。

主な取組	内容	4年度実績(参考)	5年度実績	評価及び 評価理由、今後の対応等
施設整備	各館の改修時期に合わせたゾーニングやレイアウトを行い、多くの人が快適に利用できる図書館を目指す。	先行事例・他区図書館の視察 利用者アンケートの実施 上池袋図書館の設計作業	先行事例・他区図書館の視察 利用者アンケートの実施 上池袋図書館の基本計画、設計 千早図書館のコンセプト検討	B 令和8年4月リニューアルとなる上池袋図書館の大規模改修、令和10年リニューアルとなる千早図書館改築に向け、空間、機能、運用等の検討を行った。 今後の図書館のあり方を左右するため、重点的に取り組む。 既存の図書館の対応も検討する。